

平成 30 年度全国剣道指導者研修会（中国ブロック・岡山県）



リズム剣道の様子

平成 30 年度全国剣道指導者研修会中国ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本中学校剣道連盟、主管＝岡山県学校剣道連盟）は 11 月 24～25 日の 2 日間、岡山県サントピア岡山総社で、中学校保健体育科教員 25 名を含む 80 名が参加して行われた。本事業は平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、剣道の授業が効果的に展開されるよう、全国 9 ブロックのうち、毎年 5 ブロックで開催されている。

□1 日目（11 月 24 日）

開講式では、はじめに田谷将俊日本武道館振興課副主事が「本研修会は、中学校武道授業において剣道が導入され、効果的な授業が展開されることを目的としている。講師は実践の経験豊富な先生方が揃っている。本研修会で学んだことを学校現場で活かしていただき、子供たちが剣道はいいものだと感じるようになることが期待される」と挨拶。

続いて、網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が挨拶に立ち、「7 月の豪雨で被災に合われた方々にお見舞いを申し上げます。本研修会は、講師が集ま

って指導法研究を行い、その内容を全国 5 ブロックで展開している。2 日間の過密スケジュールが勉強していただき、必修化の中で 1 校でも多くの中学校に剣道を採用、そして本研修会の内容を授業の中で展開していただきたい」と述べた。

主管県からは藤田長久岡山県剣道連盟副会長が「全国から著名な講師の先生にお越しいただき、2 日間の研修での素晴らしい指導を期待している。武道必修化が始まり、今年で 7 年目。これからの青少年の育成のために、武道に対する期待は大きいと感じている。本研修会で学んだことを各学校に持ち帰り、さらなる剣道の振興発展にご尽力賜りますようお願いいたします」と歓迎の言葉を述べた。

開講式終了後、中学校保健体育科における武道の必修について、岩脇司講師が教育基本法の改正から学習指導要領の武道の取扱などをわかりやすく解説した。要所要所で新学習指導要領での改正点にも触れ、新しく示された柔道、剣道、相撲以外の種目を選択する条件などが紹介された。

続いて、有田祐二講師による安全管理に関する講義が行われた。用具の管理について、剣道具、竹刀などの確認するポイントを示した。

次に、佐藤義則講師が体罰・暴力によらない剣道指導について講義。50代以上のベテランによる体罰が多いという事象が紹介され、最近の報道なども挙げながら、体罰によらない指導について説明がなされた。また、褒める指導について、相手のことを考えた指導を心掛けることが大切であり、具体的に褒めることで子供たちの良さを引き出ししてほしい、と述べた。

その後、土井亮輔総社市立総社東中学校教諭による剣道授業実践例の発表が行われた。土井教諭は、勤務校ごとに学校の実状に応じて剣道授業を行ってきた。剣道具がない学校では、素振りの発表会をグループごとに行ったり、近隣の学校から剣道具をレンタルして着具の体験を行った。また、地域連携を利用している学校では、警察官に来てもらい、剣道授業を行った。細かな指導ができた反面、年度によって指導者が変わるため、指導のばらつきが見られた。現在の総社東中学校では、簡易試合に取り組んでいる。気・剣・体それぞれ審判を担当。試合をすることで、生徒がより大きな声を出すようになったり、積極的に動く姿勢が見られた。

午後は、^{かるこめ}軽米満世講師が剣道の歴史と特性について説明を行った後、山神眞一講師より動機づけの実技が行われ、「じゃんけんゲーム」「手ぬぐいゲーム」「パートナーを探せ」を実践し、楽しむだけではなく、剣道につながる動きであることを意識しながら行うことが強調された。その後、山田博子講師により新聞紙切り、ボール打ちが実践された。

さらに、軽米講師による剣道に必要な動きづくりが行われ、すり足や踏み込み足の練習では、ウォーミングアップにもなるため、運動量の確保にもつながるとの説明があった。

次に、「木刀による剣道基本技稽古法（以下、木刀基本）」に移り、網代忠宏講師より剣道具がなくてもできるのが特徴で、パイプとスポンジで作られた簡易竹刀や「いたく竹刀」などの代用品も紹

介された。ただし、本物の木刀では、すりあげ技や返し技のときに音が出て、響きが生徒のやる気や関心を引き出すことに繋がると説明した。続いて、宮原昇治講師が木刀基本 1～5 本目を示範しながら指導上の注意を解説した。

班別に分かれて、木刀基本の課題を克服するための段階的練習が討議され、引き続き剣道授業の現状と課題について研究協議を行い、1 日目を終えた。

□2 日目（11 月 25 日）

剣道具のない授業例として、宮原講師より竹刀の持ち方、素振りの指導、岩脇講師より打ち方、打たせ方、山神講師より段階的な指導の解説が行われた。

続いて、佐藤講師が音楽を活用した授業例として、リズム剣道を実践。基本技の定着が音楽に合わせて楽しくでき、巡回個別指導やペア学習、グループ学習ができるなどのメリットがある。今回は桃太郎の歌や、岡山県剣道連盟歌が紹介され、ご当地ソングにあわせて参加者も楽しく取り組んだ。

次に、有田講師が剣道具の着装法を紹介。子供たちが^{ひも}紐を結ぶ行為に慣れていないため、胴紐を結ぶときは体の前で結ぶ方法や、手ぬぐいを^{かぶと}兜のように折って頭にかぶる方法、着装の時間短縮のための頭巾などが紹介された。その後、^{しももろすみたか}下諸純孝講師より、基本となる技の打ち方、打たせ方の基本動作、山田講師よりごく簡単な試合が紹介された。一本になる技を身に付ける練習であり、判断基準を明確にすることが大事であるとした。

午後は、佐藤講師が段階的な指導法から、面抜き胴の指導を行い、ごく簡単な試合の紹介をした。

最後に指導と評価について、岩脇講師が講義を行い、指導と評価の一体化の重要性を解説した。

閉講式では網代講師が主催者挨拶、軽米講師が講評を述べ、手島貴教総社西中学校教諭が講師に対する謝辞を述べ、櫻間建樹岡山県学校剣道連盟会長が主管県挨拶を行い、全日程を終了した。